
1 ページ

ぴーせる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

1ページ

【Zコード】

Z2311M

【作者名】

ひーせる

【あらすじ】

性転換してしまったこと以外、何の変哲もない一生徒だった俺。そんな俺が、あいつに誘われ学級委員になってしまってから

まじめのページ（複数用）

作品完成日：2009/02/19

俺はある日、突然女になってしまった。

理由とか、そんなものはまったく知らない。

医者とかにいろいろ説明された気もするけど、当時は自分のことで手一杯だったせいで覚えてないのだ。

それは高校一年のときのこと。

授業中に胸の奥からチリチリと焼けるような熱さを感じ、それが次第に全身に転移したかと思つて意識を失つてた。

もうね、あのときは本当に死ぬかと思つたよ。

お花畠まではさすがに見えなかつたけどさ、走馬灯は経験した。

やばいね。

ネガフィルムが上から下に流れていいくよつて、カタカタカタ……つて自分の記憶が流れしていくの。

さも自分は映画の観客つて感じでさ。

今はなんとか生きてるからこつして笑い話だけど、それで死んじやつたら洒落にもならなかつたよ。

まあ、女になつたことも、それどうかじやなかつたんだけどね。

でも、こいつは、普通はもつとこりこりトラブルあるもん
じゃないの？

マスクが大騒ぎとかさ、原因究明に政府が極力をつくすとか。
唯一あつたつてこつたら、うちの家計に医療費が響いたことぐら
い。

周りも周りで意外と早く順応しやがつてた。

俺を差し置いて、やつらと話したらなによ、マジで。

やれ、女の子はびい？ だの。

やれ、生理はきた？ だの。

拳銃に乳をまさぐり揉まれた日にはカチンとくる騒音がじや取まら
なかつたね。

うちの先生も初めて見たつて言つてたよ。

同級生の男子を再起不能にまで追い込んだ女だ。

まあおかげをままで、今はもう普通に生活出来るといつまでもきたん
だけど。

ちなみに今は高校一年。

女になつてから一年つた。

この頃になると迫り来る受験にプレッシャーを感じてはいるんだけど、良ことこ両端してこるわけじゃなくて、まだまだ遊べる季節なんだよね。

先生は「一年のうちから受験の準備を始めれば」とか「いつの間にか」とか言ってくれるけど、まあ関係ない感じ。

それに、一年も経てば女としての生活にも慣れてくるんだよね。

下着もスカートも何のや。

せいうちの女とそう変わらないぐらいまですっかり馴染んできた。

だからいざ女としての生活も楽しめるようになつたし、せつかく楽しめるようになったんだから、それを満喫しなきゃ損だよ、損。損。

もつたいないつて。

実質的に、人生の半分以上損しちゃうとなるよ。

でもね、そんないふことには慣れてきた俺にも、一部例外が

あるんだよね。

あーいつ。

あいつを見るとか、何だか不思議な気分になるの。

効果音で言いつと、むふああいつして、ほわってなつて、ちゅんつてなるの。

俺にも分かんない。

でもむ、その気持ちを詳しく書いてみると、どうしてだかのた打ち回る母じに悶えひきやつんだよね。

ひああああいつになつちやうの。

枕に顔を埋めて手足をバタバタさせたい感じいつのうのかな。

そんな気持ちに襲われたときには、最近ゲーセンで取った大きなステッキのぬいぐるみをぎゅうと抱き締めて落ち着かせるんだけど、これがまた時間掛かるんだよね。

長いとれで一時間。

ずっと悶々いつなれちやう。

やあ、そんなリスクを負つてまでこんな口元で書く必要はないと思つたんだ。

胸に秘めておひや、つて感じだね。

まあ書を出しつしては「こんなもんかな?

「んなの書くなんて生まれて初めてだからよく分かんない。

人に見られるようなものでもなし、これでいつか。

三日坊主で終わらなきやいいけど。

学級委員のページ

学級委員ところのは非常に大変な仕事である。

なんて、いろんなことを今やらなければ書かなければ記す必要もないんだけど、それでも今日のことは大変だったんだよね。

まさか学級委員たるの俺が先生のパソコンにやらされたとは。

正直職権濫用にもほどがあるだらーって思ったね。

そもそも俺が学級委員に立候補したのも、あいつが無理やり誘つてきたから。

意外と簡単な仕事。

クラス会議の進行役だけやつておけばいい。

そんなことをうたい文句に悠然と語つてくるもんだから、俺もついつい気になつて一緒に立候補してしちゃつたんだ。

へえ楽じやん。

それなら他の係をやるよりいいかな、って。

でもさ、よくよく考えればそんなことあるわけないじゃん。

授業が終わるたびに黒板を消すのも学級委員の仕事だし、学級日

誌なんてのも毎日放課後に書かなくちゃいけないわけよ。

行事のときなんて、これでもかとばかりにかつ出されるし、一番大変な役なんだよね。

それに、元々良い大学に進む気なんてない俺と比べて、あいつは進学する気満々。

部活でも活躍しているけど、うちの高校はそんなにスポーツが盛んじやないからさ、スポーツ推薦は望めないわけ。

だからあいつはそれを諦めて、進学するために学級委員という大役を、俺を巻き添えにして肩書きに載せようと田論んでいたんだ。

まつたくけしからん。

まあこーやつはびうあれ、俺も一応は学級委員に立候補した身。

他の係のやつらもしっかり仕事している中、俺だけが逃避つてのはしづやいけないな、って自重してたんだよ。

なのにあいつときたら……。

今日の招集は、提出用のノート集めと、それを職員室にまで運ぶ作業。

憎たらしいことに理科、国語、数学と三教科も同時にノート提出があつてさ、それを先生一人で運ぶのは無理だから、って理由で徵

集されたんだよね。

だけど、それなら先生も含めて三人いるんだから、一人一教科ずつ分担すれば良いわけじゃん？

そうすれば一人四十冊ずつで済むし、個々の負担も減れば時間短縮も出来るわけ。

なのに、なのにだよ？

あいつは先生の呼び出しに来ないし、先生も先生で俺に言い付けるなり即行職員室に逃げ帰りやがったの。

最低じゃない？

俺が男のときだったらまだしも、今は完全に女で、それも結構チビなのよ。

当然そんな体格で力があるわけでもなく、傍から見たら俺ほど非力に見える人間はそういうだらうつてぐらい非力なの。

なのに先生は俺に全部任せやがった。

人としての人格を疑うね。

適任者の三人のうち一人もいないんだから、その役目は当然の成り行きで全て俺に任せられることになったわけ。

つまり約四十人分のノートを三教科分、合計百二十冊を一人で二階下の職員室にまで運ばなくてはいけなくなつたんだよ。

ふざけんなつて感じ。

ここで心優しきドラマの世界なら「手伝おつか?」って声を掛けてくれる優しいクラスメイトがいるんだらうれしいが、現実はそういうかないわけよ。

むしろこのうちから「手伝つて」って声を掛けたのに、ノートのあまりの量からかみんな見て見ぬ振り。

もうみんな死んじゃえばいいのに。

そんないきさつから百一十冊ものノートを一人で運ぶことになつたんだけど、よくよく考えれば俺もバカだつたんだよね。

何で百一十冊のノートを一度に運ぼうと思つたんだらつ。

まつたくもつて畜行としか思えない。

何往復かすればいい話じやん。

いくら授業の中休みで時間が少ないからつて、先生に任された責務なんだから、多少遅刻しても見逃してもらえるだらつ。

でも、そのときには一人で運ばなくちゃいけない絶望感から今まで頭が回らなかつたんだらつね。

俺は山盛りに積み重ねた百一十冊のノートを抱えて、腕の感覚が

なくなりながらも必死に廊下を歩いたよ。

ふらりふらになつて、よろめきながらもね。

まあ百二十冊もノートを積み重ねて運んでいればさ、前が見えなくなるのは当たり前じやん？

その視界の悪さから、俺は誰かにぶつかつて大量のノートを廊下に散らばしちゃつたんだよね。

バサバサつて、盛大に。

で、問題なのがそのぶつかつた相手。

体育会系でなおかつ爽やかな長身男。

俺と同じ学級委員であるあいつだったのよ。

信じられる？

先生の招集から逃げ、俺に全負担をかけてきやがつたあいつと廊下で邂逅だよ。

しかも、ふらふらだつた俺を介するでもなく普通にぶつかつてきやがつたの。

ふざけんなボケ！ って文句を言おうとしたんだけど、そこであいつはぶつかつたことを恥ぢれるでもなくこいつ言つてきやがつたんだ。

何してんだ？ つて。

これにはもうカチンときたね。

見れば分かるだろ、ノート散らばしてるんだよ！ つてぶつきら
ぼづに答えてやつたら、人を小ばかにするよつな田で見てきやがん
の。

拳句に「ふつ」つて鼻で笑つてきやがつた。

思わず胸ぐらを殴つてみたけど、毎日部活で鍛えてるあこつの胸
板を貫通できるほど俺の拳は出来りやしない。

ま、殴るだけ無駄つてやつだつたんだよね。

「の際気が済むまで殴つてよつかと思つたけど、ノートを運んで
るのが中休みの時間で、そもそも時間を掛けられなかつたんだよ。

だから急いで散らばつたノートを集めてたんだけど、そこであい
つはこいつ言つた。

それ職員室に持つて行くの？ だつたら俺も手伝つたけど？ つて。

ふざけんなつて思つたね。

けど？ つて何だよ、けど？ つて。

元はといえばあいつの仕事だつたんだよ、これは。

先生だつて勝手に逃げ帰つた割には常識人で、女になつた俺にこ

んな力仕事を任せると氣なんてなかつたらしいんだよ。

だからあいつに任せようと募集したって言つてたんだけど、そのときにはいねえの、あいつ。

「これで先生の諦めの良さが炸裂だね。

学級委員を招集するつてことは、元から五十冊も自分で運ぶ気なんてなかつたわけよ。

だからもつ、あいつが見つからになると「あと任せた！」って言つて逃げたの。

まあ先生にもムカつくけど、先生の呼び出しに来なかつたあいつもあいつだろ！ って話。

そのことをオバマも真っ青の名演説で語つてやつたら、あいつは反省の色が一滴も見えない様子でこう抜かしやがつた。

じゃあ半分ずつこな、つて。

は？ つて思つたね。

何が半分ずつこだよ。

「俺に任せとけ！」って全部持つていくべきだ。

それを、まさかの「半分ずつ」宣言。

何のために鍛てるんだよサッカーバカ！ と言わざるを得ない状況だったね。

そんなことをグチグチ文句言つてたら、あいつ八十冊ぐらい一人で運ぼうとしてんの。

半分ずつこね、つて自分から言つた舌の根も乾かぬだよ？

あいつが八十冊運ぶんだから、残るは四十冊で、つまり俺の一倍ぐらいの量を運ぼうとしてんのよ。

半分ずつじゃないの？ つて聞いても、「これで半分ずつこだべ？」って言つて聞かない。

疑問形で返してくる意味が分かんない。

確かに楽だけどさ、そもそも半分ずつこいつて言つたのはあいつなわけよ。

しかも俺の言つたように全部運ぶでもなし、どう見てもあいつの方が俺よりたくさんノート担いで、それで正しことか抜かしやがるの。

ついに数も数えられないほどのバカになつたのか、と哀れんだんだけど、事もあつて道中でさりに俺の運ぶ分のノートをかつさう。

あ、わり。まだちょっとお前の方が多いよな。つて言つながら。

もう脳みそまで腐りやがったか、って感じ。

だって、どう見ても俺の方には三十冊もないっていつの間にか、それでもあいつは俺からノートを奪つていいくの。

言葉と行動が繋がってなかつたね。

最終的には、俺に十冊もノートが残んなかつた。

俺が十冊ぐらいで、あいつが百冊超。

そんなにも差がありながら、あいつは「半分ずつ」だ「つてまだ抜かしやがるわけよ。

呆れたね。

ほとほと呆れたね。

たぶんあいつはもうダメなんだ。

きっと脳みその大半が溶けてきてるに違いない。

明日にでも先生に言つてやるわ。

あいつ、小学生からやり直した方がいいよ、って。

梅雨なんて大嫌い。

雨ばっかり降ってじめじめするし、家中がカビ臭くなつて嫌だ。

一応ファブリーズするんだけど、臭いは消えても湿っぽさはなくならないわけよ。

だから本当にダメ。

気まで滅入っちゃう。

それに、部活が中止になつちゃうのも痛すぎる。

せつかくサッカー部のマネージャーになつたばかりつていうのに、活躍する場も作らせちゃもらえないんだよ？

まったくやつてられないね。

でもさ、確かに今日は晴れるつて天気予報のお姉さんが言ってた気がしたんだよ。

梅雨が明けて初夏になります、とかなんとか、すっごく明るい笑顔で。

そんなことをタベ聞いたような気がしたからや、今日は珍しく傘を持つていかなかつたんだ。

しつかしまあ神様つてのは難儀だね。

だって、こんなときに限つて土砂降りの大雨にしてくれるんだから。

男のときだつたら、土砂降りだとして走つて帰つたと思つ。

濡れることもいとわず、カバンを頭の上にして猛ダッシュ。

ワイシャツや制服をビショビショにしても、ハンガーにかけて風呂場で干しつければ乾くかなつて。

そんな程度の認識しかなかつた。

でも、俺はもう女なんだよね。

申し訳程度でも胸は膨らんでるし、膨らんだ胸のために下着も着けていい。

雨に濡れたら当然それがワイシャツから透けて見えちゃうわけで、女として馴染んでしまつた俺からしたら、それはとんでもないことがなわけよ。

まあ運が良いのか悪いのか雨が降り出したのは放課後だったんだけど、それでも俺はどうやって帰るの？ 升降口で佇んでたの。

傘をパクるのも、こんな雨じゃパクれる傘はみんなパクられ済みだろうし、カバンには教科書入ってるから傘代わりには出来ないだろうし。

つて、そんなことを思いながら曇天を仰いでたら、後ろから声が掛かったわけ。

何してんだあ？ つてのんきなあいつの声。

あいつには先生のところに学級日誌を提出させに行かせてたはずだから、それから戻つてくるまでの時間、俺はずつと呆けてたみたい。

ずっと呆けてたことに恥ずかしくなったけど、それでも傘を忘れてたことを正直に話したら、あいつ、ムカつくことに大笑いしてきやがんの。

ダッハツハツて腹抱えて。

あいつが言ひて、せめて折りたたみ傘だけでも用意しとけよ、だつて。

これにはもう恥ずかしさを通り越して怒りが有頂天だね。

あれ、怒りが有頂天つておかしな日本語なんだっけ？

まあいいや。

とにかく、猛烈に怒った俺はあいつの顔面を殴りついたわけよ。

しかし相手はあの長身野郎。

俺が顔面パンチしようとしたのを察したのか、顔を反らすよつと少し引いたの。

そしたら見事に俺の怒りの鉄拳パンチが届かないわけ。

田一杯背伸びして腕を伸ばしても、あいつの肩に当たるかどつかつてぐらー。

悔しいからジャンپして殴りついたんだけど、あいつ異常に背が高すぎ。

何食つたらあんなに力がくなれんだろ? べらべら力がくつて、マジありえない。

結局のところ、俺の努力空しく殴るには至れなかったのよ。

肩は何度も殴れただけど、あいつの骨が硬いせいで殴った俺の手の方が痛くなつたし。

でもや、そんなことで怒りが収まるわけないじゃん？

そこで俺は、あいつが右手に持つてた傘に狙いをつけ、それを奪つて逃げたわけ。

正直、これはチャンスだと思ったね。

まさかあいつとしてもあのタイミングで傘を奪われるとは思わないだろ？し、予測してなかつたんならそれだけ行動が遅れると思つたわけよ。

それに、女の俺ならいざ知らず、男のあいつから傘を奪つても濡れながら帰らせればいいかな、つて。

男つて本当に楽だからさ、ガキみたいに無茶をせても無理は利くつてことが経験上分かるんだよね、俺の場合。

でもや、なんで男と女つてこんなにも差が歴然としてるわけ？

俺だつて傘を差しながらでも必死に逃げたはずなのに、校門に着くといつといつでもう追いついてきやがんの、あいつ。

もうね、あつといつ間。

さすがサッカー部だわ、とか思つたんだけど、すぐに傘取られちゃうの、俺。

ひょいと簡単に傘を取り上げられちゃつた。

でも、取り上げられたからといってすぐに諦めるわけにはいかないのよ。

周囲は視界も通らぬほどの大雨。

そんな中、近くで雨宿りできるのさっきの昇降口べらこのもので、でもそこまで結構遠いのよ。

俺だつて逃げるために全力疾走したわけだからさ、あつとこつ間といつてもそれなりに距離があるの。

濡れるのは嫌だし、下着を透けさせるわけにはいかないから、俺だつて必死。

顔にパンチが届かないぐらいだから、さすがに高くまで上げられた傘を取ろうとは思わなかつたけど、それでも傘が雨を防いでくれる領域にはいみづつて頑張つたの。

あいつが高くまで傘を上げていたおかげで、雨に濡れない場所がそれなりにあつたからね。

でもや、そこは性格の悪いあいつのこと。

すぐに俺の田論みもバレちゃつて、なんとあいつ、全力で逃げやがつた。

酷くない？

全力で逃げてた俺をあつとこつ間に追いつめたあいつが、今度は全力で逃げるんだよ？

追いつけるわけがないじゃん。

必死に「待つてーー！」って声を掛けたんだけど、それで待つよつなやつならこんなことをするわけがない。

気が付いたらあいつの後姿すら見えなくなつたやつて、俺は途方に暮れたわけよ。

「わあ、ビックリ。ぐつちゅうけつれりた、つて。

くそ、あいつがあんな真似しなきや教科書を濡らさずこなして。

！」

今新聞紙の上に置いて乾かしてたやつ、あとで絶対ぶよぶよにならな、これは。

つたぐ、ふざけんなよ。

あのとき元傘に入ってくれればこんなに濡らさずこなして済んだの、あいつときたら……今度弁償させなきやな。

で、その続き。

大粒の雨に打たれながら、それでも俺は下着が透けるのだけは避けようつてカバンを胸元に抱いて歩いたんだよ。

でもそのカバン、考えてみたら結構濡れてるわけ。

傘を持って逃げるあいつを懸命に追いかけたんだから、その間に濡れてたの。

濡れたカバンを胸に抱いたんだから、ワイシャツが透けて下着が見えちゃうのは言つまでもないよね。

俺つてバカだなつて反省したけど、あんな土砂降りじゃどうみち防げないわけよ。

つまりあいつが俺を置いていったせい。

ぜーんぶあいつのせい。

うん、間違いないね。

まあそんな風にイライラしながら歩いて角に差し掛かったとき、なんとあいつが待ち構えるよつて立つてたんだよ。

びつちやびちや濡れてた俺とは違つて、普通に傘を差して平然とした態度で。

しかも、あいつ俺を見つけていたときやがんな。

下着透けてHロイヤなお前、つて。

いやあ、あれは今考へても余心の一撃だつたと想つね。

怒りの正拳突きたる俺の拳が、あいつのみぞおちをとられた。

あの抉るような手、たえは、今もこの手に残つてるよ。

その必殺技で大悪党たるあいつを倒せたんだけど、これがまたしつこいのね、あいつ。

火事場の馬鹿力つてのを出したはずなのに、あいつつばすべぐに起き上がつてくるの。

しつけえなつて思つたけど、ピンと閃いた俺は、うつたのよ。

反省したなら傘に入れる、つて。

まあ俺としては最大限の妥協案なわけよ。

既に濡れてはいるものの、これ以上教科書を濡らしたらマズイと思つて焦つててさ。

それなら、ムカつくけどあいつと一緒に帰ればいいんじやないか、つて。

もううるさい返事はイエスにさせてやったよ。

また殴るぞ？ って言えば一発だったね。

やめやめ！ 入れてやるから殴るのだけはやめれ！ ってさ。

それでめっちゃ殴ってたあいつが情けねえつたらありやしない。
もちろんそのあとはちゃんと傘にも入れてもらい、濡れずに帰れ
た。

でもさ、あいつの傘って、あいつの身長の割に思いのほか小さか
ったんだよね。

一人で入るのは十分だったけど、やっぱ一人で入るには少し狭か
ったの。

だから俺がその半分以上を使って、傘からはみ出たあいつの肩を
たっぷり濡らしてやったよ。

いやあ爽快爽快。

さまあ見ひつて感じだったね。

肩だけとはいって、濡れた俺の気持ちを思い知れって感じ。

それに、俺んちの方が学校から遠いから、最終的には傘を借りて帰つてやつたよ。

風邪引いちまえー、が別れの挨拶。

ま、元はと言えば透けた下着に鼻の下伸ばしたあいつが悪いんだからな。

仕方ねえよ、うん。

……でも、よく考えたらあれって相合傘だったんだよねえ。

よく修学旅行は良いもんだって言つたび、あれは嘘だね。

京都辺りの自治体が地元活性のために全国に法螺吹いて、学生をみんな修学旅行に来させるためにやつてゐるんだ。

間違いない。

第一、お寺とか見て何が楽しいんだ？

そりや清水寺とか高い場所にあるお寺なら景色も楽しめるナビや、お寺 자체には何の魅力も感じないわけよ。

あれだよ。

学生に紛れた建築物マニアを掘り起こすための原石探しもつなんだよ、きっと。

その手の団体から圧力を受けてるから、学校側は何の疑問もなく生徒たちを修学旅行といつたのが原石選別に赴かせるんだ。

それに加え、集団でのお泊り。

あれは酷い。

とてもじゅないけどせひしてられない。

何せ、やつぱり俺つて女子扱い決定なのな。

あいつと一緒に部屋に泊まれたら面白そうだな、とかひつそり思つてたのに、周りが全然空氣読まねえの。

確かに体はちゃんと女だから、男のあいつと一緒に泊まるのは無理があるかもなあつて悟つてしまつたけど。

やれ、女子同士、一緒に部屋にならうねー！ だの。

やれ、前に揉んであげた成果はどうのくらいた実つたの？ だの。

むうひざつたいたりありやしない。

部屋に着いた途端、女子たちに囲まれて身包み剥がされたときには貞操の危機さえ感じたね。

たぶんつけのクラスの女子たちには工口親父の幽靈か何かが取り憑いてるに違いない。

だつて身包みを剥がすなり、合計何十本にも及ぶ指たちがやらしい動きでわきわきと俺を襲つてくるんだもん。

間違いなく生前に性犯罪を犯して死んだ工口親父の幽靈が集団憑依してるね。

それでも、やっぱり修学旅行には自由時間つていうやつがあるわけよ。

一田田、一田田の中休み的な自由時間は女子たちに潰されてしまつたけど、三田田は丸一田田由時間。

基本は京都の町を巡らなくちゃいけないらしいけど、どうせ教師の用がないんだと割り切つて、中には漫喫に行くとか言つてたやつもいた。

さすがに引いたよ、それには。

で、一田田の夜。

なんとあいつが俺を勧誘するために部屋まで来たわけよ。

ちょうどそのとき女子たちのわきわき攻撃を受けたる最中だったから、俺としても抜け出すチャンスなわけ。

ひん剥かれかけた寝巻きを正しながら部屋を出て、俺たちは旅館のロビーで話すことにした。

でさ、あいつ超緊張した面持ちで俺のこと見できやがんの。

あれだね。

きつと周りにバンバン修学旅行カップルが出来て、独り身のあいつは焦つてたんだよ。

見るからにそんな感じ。

女子の中で一番仲の良い俺を三田田の自由時間に誘つて、体面だけでも守らうつって魂胆だよ。

見え見えだつつうの。

でも俺としてもそれは都合が良いわけ。

だつてあいつの誘いを断つて二日目に突入してみ?

間違いなく女子たちに、いや女子のHロードもに拉致られる。

絶対にラブホ連れ込まれる。

そんなことが脳裏を過ぎったから、俺としても魔が差したんだな。

あいつが、明日一緒に行動しない？
つて誘うなり、即行頷いち
やつたもん。

絶対に一人だけで行こう！って。

やつぱ嫌だよね、貞操奪われるのは。

まだ男に興味あるつて段階まで進んでるわけじゃないけど、やつ

ぱり貞操を奪われるなら好きな相手が一番だよ。

そんなやつ現れるか知らんけどな。

というわけで、三田田はずつとあいつと「入りきりで行動する」となったわけ。

それがまたさ、意外や意外、ずいぶんと退屈だつたんだよね。

いつもいつも俺をからかつてくるあいつが、その日に限つてめちゃくちゃ大人しいでやんの。

気持ち悪かつたねえ。

ドツキリかと思つてキヨロキヨロ見渡したんだけど、誰かの影が見えるどじりか修学旅行生が俺たちぐらいしかいない有様。

しかもあいつ、今は女である俺と二人きりで歩くことに緊張してんのか、時たまこっちに手をぶつけてくるの。

歩くときに手振りすぎだつて。

こいつの手にガンガンぶつかつて、正直ちょっと痛かった。

ぶつかりすぎて、あとで見たうじょつと赤くなつてたもん。

何をしたかつたんだか。

それで、あまりに会話がないもんだからいつからこの話題を振つてみたわけ。

あの舞妓さん可愛いね、とか。

京料理って味が薄いよね、とか。

でもさ、やつぱりあこつ变に意識しちゃう。

あ、うん、とか。

そうだね、とか。

そんな淡白な答えしか返してこねえの。

で、結局そんな感じで一日田が終わっちゃって、なんだかなあって感じ。

どうせならもつと楽しい思いで作りたかったよ。

一人で大笑いしながら食べ歩いたりとか、一定番のお土産用の木刀をお揃いで買うとか。

それからあとも全然絡んでない。

俺は女子どもの方に強制送還せられぬし、あいつもあいつで男子たちとくつちやべつてゐし。

唯一学級委員の仕事ではち合わせすることになったんだけど、それが新幹線に乗るときのまとめ役だったんだよね。

そんな役をしながら話なんて出来るわけねえっての。

新幹線つて止まってる時間がめちゃめちゃ少ないから、みんなを素早く誘導させなきゃいけない先生たちと俺たちは大忙し。

いつまでも売店でお菓子買つてる女子どもを引っぱたいて連れて行つたり、拳句にレディース気取つて座り込みしての女子を見つけてときには飛び蹴りかましてやつたね。

正直この仕事が一番疲れた。

で、結局家に帰るまで話も出来なくて、土日に入っちゃつたから今もまだ話せないでいるわけ。

電話かメールしようかなとも思つたけど、それってなんか癪だし。

あいつがまともに話しかけて来なかつたんだから、話しかけて来るならあいつからしやがれつて感じだよ。

でも、そのまま元旦を迎えた嫌だな。

登校中に絶対あいつと会つんだもん。

どうしよう。

早くケータイ鳴らないかなあ……。

練習試合のページ

今日はまつりの高校でサッカー部の試合があった。

他校のサッカー部を呼んで、いわゆる交流がてらの練習つてやつ。

で、自称エースストライカーのあいつもスタメン入り。

そういうえば、スタメンつてスター・ティングメンバーの略なんだつて。

これは今メールであいつから聞いた豆知識。

で、そのスタメンたまは、これがまた試合の中だとなかなか格好良いのな。

自称してるだけあって、成功回数は少ないけどバンバンシュート打つの。

あれはもうシユート製造機だね、間違いない。

きつと自分に来たボール全てをゴールに向けるためだけに製造された人間なんだよ。

でさ、そのバカバカシユートばっかり打つあいつも、試合が終わつてみると尋常じゃないくらい汗をかいてるわけ。

そりゃ残暑厳しいこの季節にあれだけ動けば汗もかくだらうけど、そんなレベルじゃないの。

あれはたぶん体に含まれてる水分の半分は放出してたね。

だらりだらりビリビリじゃない。

じぱりじぱ。

そこでサッカー部マネージャーたる俺がタオルを差し出したわけなんだけど、やっぱり汗製造機は違うね。

結構大きいタオルだったはずなのに、すぐ全部びっかりやびっかり濡れちゃうの。

全部で三枚ぐらいタオル使ってよしやく収まった。

まったく、いちいちタオルを取りに走る俺の身にもなれって話。

いや、俺よりもあいつの方がよっぽど走ってたわけなんだけど。

もうろん試合はいつの高校が勝利。

相手が弱小校だからてのもあるけど、あんなにボンボンショート打つてたんだから、勝てなかつたら逆にあれだよなって感じ。

いやあ、にしてもあいつ可愛いね。

自分でエースストライカーとか言つてはばかりないくせに、部活のメンバーから「さすが!」とか言わると照れてやがんの。

似合わないつたらありやしない。

でもさ、照れてる姿見て「きもつ」って言つただけなのに人の頭ぶつことなくない?

疲れてるせいかそんなに痛くなかったけど、俺にだけなんか厳しいの。

するいわー。

で、その帰り道、他のサッカー部たちと別れて俺たち一人で帰つてたわけよ。

そう、一人つきり。

俺としては修学旅行のぎくしゃくぶりがぶり返すかなあつて思つてたんだけど、あいつは試合に勝つて嬉しかつたみたい。

無口どころか、頼んでもない話を、俺だってマネージャーとして見てたはずなのに、自分の活躍をいちいちハイライトしながら説明してきやがんの。

あのときはこの角度でバスがきたからつまくショートできた、とか。

やつぱあそこは俺のフォローがあつたから得点に繋がつた、とか。
それがまた楽しそうな顔してた、じつは相槌もままならないぐら
いこべりべり話してた。

俺としては無口なあいつよつはマシだと黙つただけで、問題な
があいつの汗臭さ。

身振り手振りを混ぜて雄弁に語るもんだから、その身振り手振り
に合わせて汗臭さがこっちにまで漂つてくるわけよ。

ホントに臭い。

マジマジ。

くわくわくわくわく、空氣の読める俺はエイトフォローをシューってあいつにかけて
で、空氣の読める俺はエイトフォローをシューってあいつにかけて
あげたわけ。

ほり、臭いって気になるじやん？

夏場が過ぎたとは言つてもまだ暑い季節だしさ、俺はこつも
常備してゐるよ。

それに、あいつとしても臭いを振つまくのは良くないだろうつて
思つて、俺としては十分すぎるぐらいの優しさなわけ。

でも、そしたらあいつ、エイトフォーが喉に入ったらしくって、
げほげほつ思いつきりむせてんの。

超だつせー。

そんでもせたかと思つたら、今度は俺のエイトフォーを奪つて俺
にシユツシユかけてきやがつたの、あいつ。

くせえのはお前もだ！ って。

いやあ最悪だつたね。

「うちの優しさをむげにしてその扱いか！ って感じ。

つうか、元は男だつたけど今はれつきとした女なわけよ、俺は。

そんな俺に対してくれえとは何事だつて話なのね。

デリカシーがないつていうかなんていうか。

そつからはもうエイトフォー合戦だつたよ。

俺も予備で持つてたもう一個のエイトフォーを取り出して応戦。

年甲斐もなく道端で走り回つてエイトフォーかけ合つ姿つて、今

思つと相当恥ずかしかつたなあ。

あいつが電柱に隠れるから、俺が回りこんでシュー。

回りこんだ俺を、そり一回元に戻つてあいつが回つてんでシュー。

最終的にただの追いかけっこっぽくなつちやつて、俺らはガキか
！ つて感じ。

でもや、やっぱサッカー部のヒースたるあいつの足はめつちや早いのな。

追いかけっこモードになつた瞬間、あいつの俊足がフル発揮だよ。
とてもじやないけど追いつける気がしないね。

無理むつ。

拳句にバーかバーかつて言いながら、あいつとつとと家に帰りや
がつたし。

マジでガキかと思うね。

つて、そりいえばあのハイトフロー返してもうつてない……。

あれつて意外と高いからなあ。

今のが「返して」つてメール送つとい。

そんなわけで今は一いつして家にいるんだけど、服はさすがに着替えたね。

暑い中で走り回ったんだから汗もかいたんだけど、それ以上にヒトフォー臭い。

やっぱ適量が一番だよ。

ガキみたいに走り回ってたくさんかけまくったら、そりゃあもうすっごく臭い。

尋常じゃないね。

鼻がよじれすぎて折れるかと思つたよ。

あいつも今いるヒトフォー臭いユニフォームを洗つてるんだらうなあ。

俺の人のこと言えないけど、あいつも相当ガキ臭いからね。

試合で疲れてたはずなのに、よくあんなにほしゃげるもんだよ。

俺なんでもうくたくた。

いつも書いてる右手も力が入んなくって、今にもペン落としそうだ。

ああ、もうだいぶ眠くなってきた。

それだけ疲れがたまっちゃったんだ。

今日はもう、ひやひやヒヤヒヤ一浴びて、あこひでやすやすと
一ル送りで寝ることにしておつ。

それじゃあ、おやすみなさい。

今日の放課後はしんどかった。

だって、いきなり先生が俺の前にやってきて、「お前、修学旅行のレポート出してくださいだろ?」「だよ?」

俺からしたら、そもそも修学旅行のレポートって何や、って話なわけ。

修学旅行の宿題ならもう済ませてあったの。

課題研究つていうやつで、京都の歴史とかそういうのを各自まとめて先生に提出するやつ。

それならとくべく終わらせて出して出しここたまはづなのに、先生は「出してないだろ?」って言ってきたの。

レポートを出してない? 何で? って感じ。

自分で言つのもあれだけ、俺って結構真面目だからさ、そういう宿題を忘れるわけがないんだよね。

宿題だって、期限日、ギリギリのことも多いけど、今まで手に取まるほどの数しか忘れたことがないの。

でも、聞いてみたら私のレポート、学級委員専用の宿題らしいんだよ。

学級委員の仕事を通して修学旅行中に感じたことをレポートでまとめるっていうの。

は？ 初耳なんですか？

修学旅行前に幾度かあった集まりには全部参加したはずだし、話を聞きそびれたこともない。

だから、そんなの聞いたことないって弁解したんだけど、先生が言ひにはちゃんと答えたらしいんだよね。

あいつに。

ああ、なるほどって思ったよ。

原因はなまつさうしたね。

あいつが俺にちゃんとそのことを伝えてなかつた。

これだね。

これには本気でキレかけたよ。

だって、嫌々ながらもちゃんと学級委員の仕事をこなして、割り良い生徒として通つてゐつもりだつたんだよ？

それなのに、あいつの伝達ミスのせいで怒られなくちゃなんない
なんて、理不尽にモロボシがある。

でも先生からしたら、そんな関係ないじゃなくて、とにかく放課
後に残つて書けって言つてきたの。

まったく、不条理つてレベルじゃないよね。

加えて今日の口語論述は俺。

まあさすがに口説の方はあいつに無理やり押し付けたけど、レポ
ートはそもそもいかないのよ。

放課後に一人残つて課題、つていうの、なんか寂しいじゃん?
だから強制的にあいつも残らせたんだけど、これがまたつづいて
たらありやしない。

元はといえばあいつのせいなのに、「忘れたの?」とか、「バカ
じゃねえの?」とか。

本当にひどい。

でも、ムカついたからといってレポートをぶん投げても課題は減
らないわけで、あいつに構う分だけ作業が遅れるの。

本当に世の中の辛さが身に染みたね。

嫌になりそう。

一日田の行動を思い出して、それを書いて、まとめる。

一日田も同様にして……なんて俺は頑張つてやつてたのに、暇なのか、あいには俺に気持ち悪いぐらいうるさくできやがるの。

何か字が丸っこくなつたな、とか。

香水使つてんの？ とか。

まあそれぐらいだつたら俺としても許せるよ。

丸っこくて女の子の子した字になつてきてることには俺もつかず感づいてたし、たまに気分で香水をちよつと使つてみると、丸っこいって言葉から溢れんばかりの憤りを覚えたね。

でもや、「ねえまだ？」とか、「俺待つてんだけじ」とか。

それはねえよ、マジで。

人が一文書くたびにそこそつ言つてくれるもんだから、つい怒りに任せて追い出しちゃつたよ。

もう勝手に帰れ！ つて。

そしたらあいつ、本当に帰りやがったの。

信じられる？

あいつがそもそも元凶なのに、なんであいつは素直に帰るのかな、と。

それからもう本当に寂しかったね。

俺がつむだつたら間違いなく死んでたよ。

だつて、放課後に、耳を澄ましても遠くから部活の掛け声ぐらうしか聞こえないような静けさの中で課題だよ？

普通シャーペンの書く音なんて、相当静かな試験中でもない限り聞こえないはずなのに、このときぱぱかりは嫌でも耳に響いたね。

で、俺だつてあんまり遅くまで残りたくないから必死で課題を終わらせたわけ。

終わつたのがちょうど六時になるかなつてぐらい。

辺りもだいぶ暗くなつて、廊下とかめりやめりや暗かつたの。

季節的にも秋半ばだし、俺のいた教室以外全部消灯してるわけだ

から、当然なんだだけじゃ。

で、そんな暗闇の中に書き上げたレポートを職員室にいる先生のところまで出しに行かなくてやいけないわけ。

別に「どうではないんだか」と、そういうのってなんか嫌じゃん？

夜の学校といえば怪談だし、怖いってわけじゃないけど、そういうのって気味が悪いし。

そんな風に何か嫌だなあって思つてたら、なんとそこそこあいつが登場。

サッカー部のゴーラーフォーム姿で、教室に顔を出してきたわけよ。

追い出したときは気付かなかつたけど、あいつ部活行つてたみたい。

そういうえば、今日は普通に部活がある日だつたしね。

ゴーラーフォームも泥にまみれて、だいぶ頑張つてた様子。

もしかしたら、あいつ開口一番にいつまつてきたわけよ。

まだ残つてたの？ って。

思わず頭にきて、ふざけんな！ って返したね。

そりやあさ、何時間もかけて必死に書き上げたばかりなのに、いきなり「まだ残つてたの?」だよ?

聖人君子でもない限り、そんな努力も糞もないよつた台詞吐かれちや誰でもキレるつて。

それにしてもあいつの空氣の読めなさ加減にはほとほと味れる。

時たま空氣が読めないぐらいなら天然ひやん扱いだらうナビ、いつつもだもんな、あいつ。

特に俺に絡んでるときの空氣の読めなれど異常。

本氣で死んでほしいって思つたよ。

結局のところ、あいつを蹴飛ばしつつ職員室に行つて先生にレポート出して、あいつを殴りつづけいで帰せしてきた。

もうね、蹴つたり殴つたりで両手両足が痛いよ。

わざわざ湿布貼つてきたばかり。

それでもジンジンしひれてるじ。

もつやだ。

次こんなことがあつたら、本当にハサミか何かで刺しちゃいそう。

つていうか、むしろ勝手に死んでくれてればいいのに。

そしたら明日から安泰なんだけどなあ。

俺の心の平穏が。

文化祭のページ

今日は文化祭。

うちの学校は土曜日と日曜日の一回に分けて大々的に行われる文化祭が特徴で、今日はそのうちの一回だつた。

一日目はゲームパークやお化け屋敷などのアトラクション系がメインで、あとは飲み物販売ぐらい。

ちなみに明日は、今日は打つて変わつて飲食店が台頭する日。

もちろん朝食抜きは確定でしょ。

お母さんにも、明日は朝ごはんいらないうつて言つてあるし。

だつてたこ焼きとかクレープとかは絶対に食べたいし、三年生のクラスの甘味処も欠かすわけがない。

いっぱい食べたいもんね。

そういえば一組の喫茶店つて何を販売するんだろう？

前にそれとなく聞いてみたら「楽しみにしてねー」なんてはぐらかされたし。

まあいいや、明日のお楽しみつてことで。

でね、普段学級委員の仕事で忙しい俺やあいつも、文化祭の日だけは別。

文化祭には文化祭用の文化祭委員つてのがいて、その人たちが俺たちの代わりに頑張ってくれるからね。

いやあ、まさか人がせつせと働く姿を傍観するのがこんなにも楽しことは思わなかつた。

文化祭委員が必死こいて「何か意見はありませんかー?」と声を大にしている中、それを横田に窓の外を仰ぎ見る快感。

やめられないね、あれは。

あ、もしかして普段のクラス会議で意見がまとまらないのもこのせいだつたりするのかな?

だとしたら早めに解決案を練らなくちゃ。

で、そのアトラクション満載の文化祭一田田と一緒に巡ったのがあいつ。

流れであいつと一緒に一人だけになっちゃつた。

だつて一緒に行くつて約束してたやつら、みんながみんな出し物で忙しそぎて出張れないんだつて。

あとで先生に聞いたら、今年は例年以上の来場数らしい。

快晴だったのと、ここ最近うちの高校の評判が上がってきたらしく、下見代わりに来る中学生の親御さんがたくさん来たんだってさ。

そんなわけで、仕事のない俺とあいつしか一緒に回れるメンバーがいなかつたの。

俺としてはかなり納得のいかない選抜なわけよ。

だって、ゲームパークにしろ、お化け屋敷にしろ、男女一人で行こうものなら確実にカップル扱いだからね。

俺のことを知ってる連中ならまだしも、俺とて学校のアイドルじやあるまいし、学校全体に知名度があるわけじゃない。

三年の先輩の方に行くなら知ってる人もいるけど、今一年は性転換事件をまったく知らないやつらばっかりだからね。

一年の出し物が多い廊下を一人で通ったときは、もう色物を見るような視線が降り注いだよ。

痛いっていうのを超えて、あれは人を殺せるね。

間違いない。

でも結局は一人で巡ってきたの。

初めは俺が突っぱねて「行きたくない！」ってことで押し通そうかと思つたんだけど、何もしないつてものすっごく暇なんだね。

ビーチのクラスも出し物をしてない場所に行つてくつろいでたんだけど、まさしくつらぐだけ。

あいつときたら、前にも起きた無口病を発症してやんの。

いつもがいろいろ話題振つてやつてんのこ、ずっと上の空の生返事。

さらりに文化祭はほぼ半日続くときたよ。

こんな気まぐれのやつてらんないつて思つて、あいつの手を引っ張つて、もうあとほん棄だつたね。

ゲームパーク巡りは当然にしろ、ストラックアウト、クイズ大会、何でもかんでも参加してやつたよ。

きつとひの高校で一番文化祭を楽しんだ一人組だつたね、俺たちは。

最初のうちは俺が腕を引っ張つて連れて行つてたんだけど、途中からあいつも乗り気になつたのか、今度はあいつがぐいぐい引っ張つてきやがんの。

これがまたさ、あいつって相当不器用なんだよ。

こりちは女になつて筋力も何もなくなつてゐるつていうのと、あいつは容赦なく腕を引っ張つてくるんだ。

それがまた痛いのなんの。

今見ても、まだ腕に赤いあとが付いてる。

本当、嫌になるね。

そんであいつ、俺を引っ張つてあいつとかお化け屋敷に行こうとしやがるんだよ。

は？ ふざけんなつて感じ。

人が必死こいて「嫌だ！」って言つてんのに、あいつときたら「大丈夫大丈夫！」って笑つてきやがるんだぜ？

もう意味が分かんねえ。

あいつ、絶対人が嫌がるのを見るのが快感な性質だよ。

間違いないね、あいつはうだ。

別に俺はお化け屋敷が嫌いとかそういうんじゃない。

たださ、男女の二人組でお化け屋敷なんか入つたら、今度こそ間違いなくカツプル扱いじゃん？

それだけは絶対に避けたいわけよ。

元男の俺が、男のあいつと尊されようつものなら、それはもうホモとほぼ同義だしな。

確かにあいつは格好良い部類に入るよ。

顔も悪くないし、背丈も気持ち悪いぐらい高い。

私服のセンスも悪くなくて、渋谷を歩かせても周りのイケメンビモに引けはとらないと思つ。

でも問題は性格なんだよ。

何だよあの性格。

俺をからかつてそんなに楽しいかつて話。

いや実際に楽しいんだろうな、あいつはうだから。

他のイケメン野郎ならまだしも、そんなう野郎と尊られるなんて身の毛もよだつね。

そしたら俺はMだよ、M。

あいつとお似合この女だって隣されやが。

ありえないうしょ。

しかしああ、あいつはサッカー部の男で、俺はただのひょいひい女。

それだけの体格差があれば、無理やりにでも連れて行かれちゃうわけよ。

脇を抱えあげられて、ほとんどガキみたいな扱いを受けながら入り口をくぐりされたね。

……あれ、もしかして、あいつがその気になれば俺って簡単に押し倒されちゃうのかな？

いやいや、それだけはマジ勘弁。

今のうちに気が付いて良かつたわ。

もし心の準備もままならないうちに襲われでもしたら、きっと向の反撃も出来なかつただろうな。

危ない危ない。

これと並ぶときのために金蹴りでも練習しておこう。

暴走したあいつの下半身を止めるやつ。

で、問題のお化け屋敷ね。

これがまたや、いかにもな文化祭の出し物なわけよ。

高校生の分際でプロ顔並みのセットなんて作れるはずもないから、それをごまかすために照明は全部落としてあるの。

窓からの光もちゃんと遮断してあって、本当に一寸先すら見えない真つ暗闇。

そうすればセットなんか適当に机や椅子を配置しておけば順路が作れるし、それらの死角に隠れれば密からばまつたく見えないから驚かせるにも都合が良いんだと思つ。

だつて足元すらまともに見えないぐらい真つ暗にすれば、下手な小細工もいらないからお金も掛からないだろつしね。

まあそんな暗闇の中。

足元に何が落ちてるかも分からぬような状況にもなれば、そりや及び腰にもなるつて。

しょうがないしょうがない。

転ぶのが嫌なのは当然だし、それが自然の摂理つてもんなんだよ、うん。

それなのに、俺の引けた腰に気が付いたのか、あいつがラガラ笑つてきやがんの。

マジであいつの神経を疑うね。

「こちちは転ばないように必死だつていうのに、それを見てあいつは笑うんだよ？」

あいつは今までモラルというものを学んでこなかつたのかと、義務教育の道徳授業に意味があつたのか疑問に思つね。

つていうか、あいつがして俺が腰を引いてたことに気が付いたんだろう？

少なくとも俺にはあいつの顔すら見えないくらいだつたから、様子で分かつたのかな？

もしくは夜目だつたりするのかも。

つか、ここでもあいつ酷かつたなあ。

全然目が利かない俺を置いて、ドンドン前に進もうとしたやがんの。

こちが「待つて！」って言つて腕を掴んでるのに、返しはゲラゲラ笑いだけ。

信じらんない。

仮にも体が女の俺を、平氣で置いていこうとするんだよ？

マジで死んじゃえばいいの。

俺が必死にあいつの腕に掴まらなかつたら、間違いなく俺を置いてとつとど、ゴールしてたね。

ああもう、またムカついてきた。

あとで十通ぐらい空メール送つてやる。

でさ、それで調子乗つたのか、あいつ俺の些細な胸の感触すら楽しんできやがんの。

わけ分かんない。

目が利かないせいで抱きつくよにして腕に掴まつてたつていうのに、そこで必然的にくつついた俺の胸を「意外とあるんだな」だよ？

本氣で殺意が湧いたね。

たぶん目が利いてたら、あの場で人を殺せる目をしてたと思うよ。

元男ではあつても、今は女なわけよ、俺は。

そんな俺に対して鼻の下を伸ばすのみならず、「意外と」。

意外とって何だよ、意外とって。

確かに服を着たら「ペッちゃん」にしか見えないけども…。

くそ、まだムカムカする。

これ書き終わったら「一十回ぐら」にワン切りしてやる。

それでもまあ、なんとかお化け屋敷が終わったわけよ。

元々怖くなんなかつたけど、あいつに「意外とあるんだな」って言われてムカついたせいもあって、全然怖くなかつた。

あれだね、勢いつてすごいね。

むしろどこのお化け役の生徒がいたのかも分からぬぐらいいつに殺氣を送り込んでたもん。

あと三十分ぐらい殺氣を送り込めたら、確実にあいつを睨えてたよ。

まったく、惜しいことをした。

どうせなら呪い殺すといひまで睨んでおけば良かったよ。

今日の最後に見たのは軽音楽部の//ライブ。

これがまたや、レベルがひつゝいの。

わ〜高校生のバンドってもんじやない。

あれはお遊戯会だよ、お遊戯会。

ギターもドラムもベースもちゃんとしたのがわかつてゐるし、ステージだつてちゃんと整えられてる。

でもお遊戯会なの。

演奏の足並みはそこそこないし、第一リズム感つてのを一ノクロンも感じなかつた。

ボーカルだつて、カラオケで一緒に行つたらかよつといつまいかな?
? ぐらこのレベル。

信じらんないね。

あれでライブが成り立つんなら、俺がマイク持つてやるよつて感じだつたよ。

でも、あいつとしてはそんなライブなんてひとつでも良かったみたい。

軽音部の//ライプ会場は校庭の隅つじだつたんだけど、ちゅう
どやこにベンチがいくつかあつたんだよ。

そのベンチに座つて、そうだな、ライブなんてただのダサイBG
M程度の扱い。

それぐらいにしか聞こえなくつて、あいつはずつと俺のこと笑つ
てきやがんの。

お化け屋敷でビビつてんじゃねえよ、だの。
本当にお前は怖がりだな、だの。

まったく、憤りを行き忽くして呆れるね。

いつ俺がビビつたよ。

何で俺が怖がりだよ。

俺の記憶じや、あいつの前じや一度たりともビビつた覚えなんて
ないし、俺は絶対に怖がりじやない。

人がいくら「暗くて足元が危なかつたから」つて説明しても、聞
く耳を持たねえの、あいつ。

俺が弁明するたびにゲラゲラ笑うし、拳句に殴つてやつてもまだ
笑つてんの。

本当ムカつく。

あ、さつきの訂正するわ。

あいつ、うじやなくてう兼Mだよ。

攻めも受けもどっちでもきやがれ的な。

だって、俺に殴られながらあんなにグラグラ笑っていられるなんて、正氣の沙汰じやないね。

勝手に一人SMやつてろつてんだ。

なのに人を巻き込んであれこれ連れ回されるし、俺に殴られながらけらけら笑つてゐるし。

まったく、もう一度とお化け屋敷なんて行かねえ。

疲れた……。

何で体育祭つてこいつも疲れるんだろう。

サッカーばかのあいつと違つて、俺はインテリ派だからね。

部活のマネージャーではあるけど、そういうのは本当にダメ。

唯一の運動といえば、毎日の登下校か、あいつを殴つたり蹴つたりするとかぐりこ。

あ、だからあいつに勝てないのか。

でもそのために運動するのも嫌だなあ。

行事の体育祭ですからこんなに疲れるのに、鍛えるために運動なんてしたら命がいくつあっても足りやしない。

あれだよ、今のブームはインテリだよ。

間違いないね。

で、今日の体育祭。

俺は準備の段階からかなーりやる気がなかつたんだけど、対するあいつはかなーりやる気なわけよ。

スポーツしか脳のないあいつが唯一活躍できる場だからね。

もう周りも引くぐらいい頑張つてんの。

しかもあいつ、学級委員なのに体育祭委員までやつ始めたんだよ？

先生も「学級委員をやつてるから」って言つて止めてたんだけど、あいつのスポーツに対する熱意はそんなものじや止まらないらしい。

全てをガン無視で体育祭委員の一 年代表にまでなりやがつた。

しかもあいつ、よりこよつて俺まで巻き込みやがるの。

ふざけんなつてもちろん抗議したんだけど、先生でさえ止められないのに、インテリで体力なしの俺が止められるわけないじゃん。

結局俺まで一緒に立候補させられる羽目になつたのに、あいつときたら「お前、運動大丈夫か？」だって。

大丈夫なわけないじゃん。

つてかお前が体育祭委員をやるからじゃん。

まったく、こいつの身にもなれつての。

前日準備の日には太陽がじつぶり暮れるまで手伝わせられたり、当曰もほとんど走りっぱなし。

俺の出た競技は百メートル走と全員参加のリレーだけで、本当は含わせて三百メートルも走ればいいところだったんだよ。

なのにあいつに付き合わされて体育祭委員になった俺は、確実にその十倍は走らされたね。

もうただのマラソンだよ。

しかもとにかく全力疾走。

まあ胸がないだけ他の女子に比べて走りやすいのは反論しないけど、だからってあつちやこつちや走らせることないんじゃないの？

ああもう、マジで体育教師恨むわ。

何で怪我人のために、保健委員じゃなくて俺が走らなくちゃいけないわけ？

頑張つて保健室まで先生を呼びに行つたのはいいけど、保健の先生、なぜか職員室にいるし。

つていうか、保健の先生なら本部のテントで出張つておこでよ。

何で職員室で涼んでんだよ。

たしかに職員室は涼しいけどねー。

で、あいつもあいつもでかなり忙しそうなわけ。

うちの高校、気前が良いのか、経費で体育祭当番はスポドリ飲み放題なのね。

でかいポットみたいのがいくつも用意されてあって、そこにたくさんスポドリが入ってるの。

まあそんなもんがあるんだから、当然用意するのは俺たち体育祭委員の仕事なわけよ。

俺はその他雑務で走り回ってたけど、あいつもそのスポドリ専属係をやってたらしい。

やっぱそのスポドリ専属係って相当忙しかったみたいなんだよね。

そりやあ学校の経費で飲み物が飲めるわけだからさ、あいつと一緒に走らされてる生徒の誰一人として遠慮するわけがないのよ。

全部で五個ポットが用意されてたんだけど、みんなガンガン飲むから補給が全然間に合わないの。

あっちを補給したら、今度はこっちのポットが切れて、それを補給したら今度はあっちが……の無限ループだったって。

いやあ、雑務で良かつたなあつて実感したよ。

俺がそんな仕事させられてたら、間違いなく俺も飲む側に回つてたね。

絶対補給なんか出来なかつたよ。

そつにえぱあいつ、出場するのが四百メートルリレーと部活対抗リレー、全員参加のリレーとコレ三昧だつたんだよなあ。

リレーのときには専属係を代わつてもらつてたみたいだけど、まつたく、よくそれだけ動き回れるもんだ。

さすがはスポーツバカ。

見直すぞこりか見飽きれるね。

そんで体育祭の帰り、自分からその体育祭委員に立候補したくせにぐちぐち文句垂れるわけよ。

主にスポーツ専属係をしてたときのことをや。

やれ、野球部はポットを占領して周りを困らせていた、だの。

やれ、一方のサッカー部は礼儀正しく、暇があつたら手伝つてくれ

れた、だの。

まったく、しょうがないから訂正してあげよう。

あいつはスポーツバカじゃない、ただのサッカーバカだ。

つていうか、野球部を目の敵にしちゃ。

いくらグラウンドの使用権を取り合つて、そんなにいがみ合つことないと思つんだけなあ。

まったく、あいつはサッカーをすることしか頭にないからな。

しょうがないっちゃしょうがないか。

でもさ、いくら俺がサッカー部のマネージャーをやつてあげてるからつて「野球なんてクソだよな?」って同意を求めるなよ。

俺はお前と違つて野球を嫌悪してないの。

たしかにどつちかつて言うとサッカーの方が好きだけど、野球も野球で良いとこあるんだよ?

ま、スポーツ 자체が嫌いな俺が言つても説得力ないんだけどね。

めんどくさいから曖昧に相槌入れてたら、あいつ俺に何て言つた

と想ひ？

よし、お前も野球反対団の一員な！ だって。

何だよその野球反対団つて。

明りいかに語田選こじゅん。

つていつかあまりにボキヤ貧なネーミングだよそれ。

ああもつ、無理やりそんなん入れさせられて、毎日野球中継を楽しみにしてるお父さん申し訳が立たないよ。

頼むから公言しないでね。

本当に頼むから。

ね？

まあ、じんなとこで書いてても云わらないか。

学校で余つたら書くよ。

めんどくさい。

もう、本当にめんどくさい。

しかも俺、野球反対団のナンバーツーなんだつて。

いらないよ、そんな称号。

どうせ総勢一名じやん。

結局俺がケツじやん。

まったく、バカにもほどがあるよ、あいつは。

にしても足が痛い。

太ももの内側と足の裏がすりく痛いの。

貧弱ゆすりするだけでつづをつけ。

やばいってこれ。

明日、筋肉痛にならなきやいにやだ……。

期末勉強のページ

体育祭のときに「俺はインテリ～」だと書いてたけど、あれやつぱり訂正するわ。

俺はインテリでも何でもない、ただの一生徒です。

生言つてすみませんでした。

つていつか、何で勉強つてあんなにめんどくさいの？

正直、出来るやつの気がしれないね。

あつと脳みその根本からこりこり違つただよ。

構造とか、素材とか。

出来るやつの頭はパソコンみたいにひらくやつしてゐるに違ひない。

で、俺のは丸くて可愛いの。

丸くて可愛いのが、こんな小難しい微分積分なんて出来るわけないよな。

しょうがないしょうがない。

でも、やうは言つてられないやつがいるのよ。

あいつ。

あいつが、思いつきつ良い大学田描してゐるんだよね。

だつて学級委員やつて点稼ぎあるようなやつだよ？

勉強を怠るわけがない。

しかも、勉強会と称して俺までそれに誘つてきやがんの。

参加人数総勢二名。

素晴らしいね。

コメントも思いつかないぐらい素晴らしいね。

つていうが、最近あいつと一人きりの「どがく」のは氣のせいかな？

氣のせいだと感じた。

で、今日はその勉強会の第三回田をしてきたわけ。

第三回田つてこいつか、だいたい中だるみじやん？

一回田、一回田はなんとか「進路のために」一的な田標を掲げて
頑張つてたみたいだけど、今は酷かった。

だつて、あこひの家に行くなり「ゲームじょひぢー」だよ？

思わず樂しあじやつたけぢね。

あ、そりやう。

今日やつたゲームはレースのゲームなんだけど、あれつて思つて
た以上に面白いよね。

自分でやるのも面白いんだけど、見てるだけでも面白いの。

だつて、あこひローラー握りながら、カーブで体を傾けて
るんだよ？

左に曲がると左に傾いて、右に曲がると右に傾くの。

本当に笑つやけぢ。

おかしこつたらありやしない。

たかがゲームじやん。

体重移動関係ないじやん。

なのにあこひときたら、性慾りもなくカーブのたびに体を右往左

往傾けてる。

可愛いよね。

でも、後ろで笑つてたら「お前もやつてみろよ」「口をへの字に曲げてコントローラー渡していくわけよ。

あれは相当不機嫌だったね。

そもそも勉強せずに何やつてんだとか思つたんだけど、挑戦つてのは受けナンボじやん？

俺だつて元は男なわけだから、逃げるなんて言葉は辞書に記載されてないわけよ。

そんでもその挑戦を受けてたつたわけなんだけど、あいつって性格ねちっこいのな。

俺がカーブ曲がるたびに「お前も傾いてるぞ」とて格笑つてきやがんの。

ふざけんなって。

傾いてなんかねえよ。

俺としてはまったく傾いてるつもりなんかないわけ。

なのにあいつはカーブのたびに「ゲラゲラ」笑つてくるんだよ。

間違いない、あれは嘘だね。

ああやつて嘘言つて、自分のママをおあいこにこじみつて魂胆に違いない。

めげずに俺は頑張つたよ。

最終的にハイスコア出してやつて、しゃしゃふんと言わせてやつた。

あれは爽快だつたね。

もうやめりんない。

またあこつんちでハイスコア出してやるやつ。

でもさ、俺的にはそれで終わつても良かつたわけ。

オチとして、勉強してないー！ ってわめきながら期末テストを受けるのも甘んじようと思つてたわけ。

なのに、あいつときたらそのあとに勉強始めやがんの。

さつあまでゲームしてたのは何？

勉強諦めたんじやないの？

そう聞いたんだけど、あいつ、元々最初はゲームをする気だったって言って出したんだよね。

もう俺は確信したよ。

これはゲームに負けた憂愁晴らしだって。

まあ憂愁晴らしにサッカーをしない分だけ偉いとは思つよ。

しかもちゃんと勉強をするなんて、褒めてあげてもいい。

だけどさ、悔しいなら素直に言おうよ。

あれだ、シンデレなんだな、あいつは。

俺に負けて悔しい気持ちに素直になれないシンデレなんだな、うん。

仕方ないなあ、もつ。

まあ俺としても勉強しないとお母さんがつるわいから困るわけで、手伝つつて畠田で一緒にやつてあげたわけ。

俺つてば偉いよね。

褒めてもうつて当然だよね。

でも、あいつ俺にこうぬかしゃがったんだよ。

息抜き終わったから帰つていいよ、つて。

死ね、つて素で思つたね。

何か、俺はお前の息抜き道具だつたつてわけか？

ふざけるのも大概にしやがれ木偶の坊、つて話。

まあ普段の俺なら「」で怒つて本当に帰つたことだらう。

でも今の俺は気付いちやつてるんだよね、あいつがシンデレラだつてこと。

まつたく、居てほしいなりまじつて素直に言えぱいいのに。

ムカついた分だけ頭を引つぱたいて済ませてあげたけど、俺じやなかつたら絶対帰つてたな。

あとでお礼の品でももらつておこう。

でさ、勉強会だから、一人で向かい合つて勉強するわけね。

一つのテーブルしかなくて、しかも小さいから床に座つて膝をつき合わせるの。

やつぱ座ると身長差が縮むもんだねえ。

久々にあいつの顔を近くで見れた気がするよ。

何せあいつは超長身。

たぶん俺の成長エナルギーってやつを吸い取つてやがんだ。

俺から吸い取つた分だけ伸びたあいつの顔は、いつも遙か高みでさ、今日みたいに座つて向かい合わなきゃこんな近くに顔を見れることがないなあつて。

……あれ？

座つて身長差が縮んだつてことは、もしかして俺の足つて短いのかな？

いやいや、まさか。

きつとあいつの呪が長いだけだよ。

うん、そうに違いない。

でね、俺は思ったわけよ。

あいつ、ひげ伸びたなあつて。

俺つて高校一年のときになつたから、ひげがそう生えてな
いつちに生えなくなつちやつたわけ。

だから憧れつていつのかなあ。

正直あんま手入れされてなかつたあいつの無精ひげが、ちょっと
だけ格好良くなつちやつたんだよね。

対して俺のあじは、時たまこきびが出来るぐらこのつるつる。

ひげも薄くて柔らかい産毛しか生えてこないの。

周りの女子からは羨ましがられてるんだけど、俺としてはなんだ
かなあ。

いや、何もひげが生えてほしつてわけじゃないよ。

ただ生えたらどうな感じなのかなあつて思つただけで。

それにしても、あいつは眞面目に勉強してたなあ。

俺なんてあいつのひげをじつと見てただけなのに、あいつはすつ
とつむいてガリガリ勉強してんの。

インテグラルとか、ディーワイディーニックスとか、数学を
勉強してたみたいだけど、俺には外国語にしか聞こえなかつた。

わけ分かんないよ、数学つて。

でね、あまりにつまんないからあいつのあごひげを触つてみたの。

手ですべり上げるような感じに。

そしたら、めつがやジヨリジヨリするのね、あれ。

かりあげにした髪の毛のジョリジョリ感を、少し弱くしたぐらいのジョリジョリ感。

ちょっと気持ち悪くて鳥肌立つちゃつた。

もちろん急に触ったからには、あいつに「何してんの?」って聞かれたんだけど、「ひげに憧れて」って言つて、何か恥ずかしい気がしてさ。

適当に「ひげが芝生みたい」って答えたらい、「ならあ」でサツカーしようぜ！」って言いながらあごひげを俺の頬にジョリジョリしてきやがった。

もうマジで気持ち悪い。

痛がゆいし、あいつの鼻息臭いし、最悪だつたよ。

で、結局俺はあいつのあいひげから逃げ帰つてやつた。

ちゃんと勉強しなきゃまずいかなあ。

おやかあいつはトーストで負けたのとは思わないに決まっている。

負けたら悔しいから、ひょひょだけ勉強しない。

あ、そつだ。

テストでも、やる気を出せばいい。

で、あいつに泣きながら今までの非礼を説いてもらおう。

やばこよ、それ。

想像しただけで楽しくなつてきた。

よつし、思つたり頑張つたりおーー

あれだけ悠々自適に過ぎさせた冬休みもあと二日。

まったく、どうして楽しい時間つていつのまんなこも早く過ぎ去ってしまうのかな。

前にその現象の名前をテレビで聞いた気がするんだけど……あとでネットで調べてみよ。

で、今日はあいつが俺の部屋に遊びに来た。

遊びに来た目的は、いつまでもなく冬休みの宿題。

これがまた多いのなんの。

取つておいた大量の夏休みの宿題と比べたら、そんな大差なかつたよ、冬休みの宿題の量。

でもね、期間的には冬休みの方が圧倒的に少ないの。

夏休みは一ヶ月以上あるのに、冬休みは一週間あるかどうか。

たしか北国の方だと、いつの休み事情と違つて夏休みより冬休みの方が長いんだっけ？

ああ、だからかも。

数学の先生、前の学校は東北だつて言つてたし、その癖がついて冬休みの宿題を多くしちゃつたのかな。

まったく、少しはこいつの事情考えろつての。

こいつちは冬休みの方が短いんだぞ！ って感じ。

あ、でもたしか夏休みも数学の宿題が多くつたような……。

まあいいや。

そんなんたくさんある宿題を、頭の良い俺は一人で分担しようつて持ちかけたわけ。

やつぱりさ、あんなにたくさんあつたら一人でなんて無理だつて。

それなら一人で手分けしてやつた方が、能率的に考えて十二分に有意義なわけよ。

あいつもそいつ思ったのか、俺の提案に乗つてくれた。

でも、いつもならあいつの部屋に集まるところが、今日はあいつのお父さんが家に居てダメらしい。

つてわけで特別にうちで集合したのよ。

「これがまたあいつを部屋に呼ぶなんてひつたびさでね、思いがけず一時間も部屋の掃除しちゃった。」

汚い部屋なんて、あいつに見せられないからね。

どうせなら綺麗な状態の部屋を見てほしいわけよ。

にしても、掃除って一度始めるとなかなか止まらないものだよね。

フローリングに掃除機をかけるところから始めて、机の下を掃除、本棚の整理、クローゼットの中を整頓したりと、いろいろやつちやつた。

その中でも、やっぱりクローゼットの整頓は骨が折れたね。

だつてお母さんが、俺が女になつたお祝いにたんまり服を買い込んでたんだよ？

大抵は放課後に制服のまんま遊びに行くから、私服を着るのなんて部屋着か土日のお出かけぐらい。

だからずいぶんと持て余してたんだよねえ。

その大半が一年前に買つてもひつたものばかりだから、ものすつじへ壊かしくてや。

初めての「ちは」はお母さんによせ替え人形よろしく、いろいろ着せられたなあ。

またか家で夕食を取るだけなのにゴスロリみたいなドレスを着せられるとは思わなかつた。

お父さん、俺を見た瞬間ご飯粒吹いたもん。

俺の黒いゴスロリドレスに白い粒が何粒もついたし。

あのときは恥ずかしくてじょつがなかつたけど、今となつては良い思い出だよ。

で、そんな思い出深い服がいっぱい詰まつたクローゼット。

思い出だけじゃなくて、その量もいっぱい詰まつてたんだよね。もつてんこもり。

クレヨンちゃんの押入れ並みにめぢやめぢや詰まつてゐる。

まずはクローゼットの中に入つてゐるもの全部出すといひから始まつたね。

そしてちゃんと一着ずつ丁寧にたたんで、ハンガーにかけるものはかけて、クリーニングに出してほしいものは別に分けて。

本当に大変だつた。

汗かきやすくてシャワー浴びないとかなつて思つちゃつたぐらいだもん。

それぐらい頑張つたんだよ。

でも、それだけ集中しちゃうと時間を経つのも忘れちゃうみたい。
い。

せり、最初に書いた楽しい時間はあつとこゝ間に過ぎやうやうや
やつ。

あれだよ、さつと。

クローゼットの中身を半分ぐらい片付けたときに、事もあひひこあこいつがやつてきちゃつた。

しかもお母さんが勝手に上がらせて、部屋にまで通しちゃう。

だって、ちょうど下着を整頓してるときに乱入だよ？

驚きを通り越してインド人もビックリだよ。

にしても、自分で言つのもあれだけど、俺ってなかなか反射神経

は良い方だと思つんだよね。

あいつが入るなり、それを瞬時に判断して、パツと身を挺して下着の露呈を防いだんだもん。

世界すら組えると思つぐらい俊敏な動きで俺の下着に覆いかぶさつたんだよ。

そんな俺の反射神経が良くないわけがない。

でもさ、やつぱ入つて慌てるとダメだね。

俺だつて必死に守つたつもりだつたけど、入つてこつのは完璧には作られてないの。

なんと、俺が一番見られたくなかった縞々模様のパンツだけ守りきれなかつたんだ。

他にもたくさんパンツはあるんだよ。

白くて無地のやつとか、フリフリついたの可愛いやつとか、リボンのワンポイントが入つてゐるやつとか。

そんなお気に入りのやつとかじやなくて、俺が一番子供っぽくて嫌だなあつて思つてた青い縞々のパンツだけが、俺がパンツの山に覆いかぶさつた拍子にひらひらつて空中を舞つたの。

すゞいよ、本当にパンツつて舞うのね。

まるで紙切れを落としたみたいにふわふわ滞空時間が長く感じて、それがあいつの田の前に落しちゃった。

ほとり、つて。

いやあ恥ずかしかつた恥ずかしかつた。

あいつも俺も田が点になっちゃって、正直指先が震えたね。

出でけー！ って何か物を投げようと思つたんだけど、そのとき手元にあつたのが覆いかぶさつて守つてたパンツの数々だったんだよね。

そんなの、投げるわけにいかないじやん？

だから俺としてはもう必死も必死。

パンツを守りながら怒鳴つて「出でけ」「出でけ」「ホール。

男の俺としては、そんな文物のパンツを履いてることがばれて恥ずかしいのもあるし、女の俺としては、やつぱり下着を見られるのは恥ずかしいわけよ。

一重苦つてやつ。

羞恥心で心臓を抉られるかと思ったね。

いやあ、恥ずかしさに殺傷能力がなくて良かつたよ。

危うく羞恥死してるとこひだつた。

そんなわけで、結局今口はあいつを追に出したまま宿題を終わらせてないわけよ。

やつてられないって限度を超えたね。

もうこの身を線路に投げ出したいくらい。

つていうかや、あいつもあいつでノックぐらいすればいいじゃん。

何で何も言わずに入ってくるわけ？

お母さんもお母さん。

俺の友達が来たんなら、せめて俺に一言声を掛けてよ。

それが礼儀つてものじやん。

たしかに、俺だってたまゝにノックしないで部屋に入っちゃったりとか、お母さんの友達と勝手に世間話とかしゃつたりしたけどさ、ここで仕返しする必要ないよね？

ね？

もつたくせー、もつ本當言じりしない。

あごにつけたあひがつたあの縞々パンツ、もつ一度と履けなこよ。
あのパンツを履いてるのがあいつになればたら、「ああ、あのとき
の「つてなるじゅん。

嫌だよそんなの。

お前つてそんな可愛いパンツ履いてるんだー、とか言われうつ
じゅん。

恥ずかしすぎて死んじゅう。

はーあ、縞々パンツ捨てよっかな……。

バレンタインのページ

今日は一月十四日。

セントバレンタインデー。

聞くところによると、チョコを売りたいがためのお菓子メーカーの陰謀らしいけど、まあそんなの関係ないよね。

陰謀だ！ って言ひてるやつはただの僻みにしか聞こえないし。

もし本当に陰謀だつたら、それを考えた人は天才だよね。

だつてここまで広まっちゃうんだもん。

今さら少數が反対したところで、もつひとつにもならないよ。

で、今日はそのバレンタインデー。

英語で Valentine's Day だつけ？

まあいいや。

まあ一昨年まではむづつ側だった俺だけど、去年と今年はあげる側の人間。

いや、去年は一年通じてバタバタしてたせいあげてなかつたんだけじゃ。

でも今年は違うの。

俺としては、そりそり女としての賞祿が付いてきた頃だと想ひつんだよね。

何も特定の人物に本命チヨコを渡すつてわけじゃないの。
ただ、女としてみんなに友チヨコを渡すのつて、なんか憧れるんだよ。

すつゝへ女の子つぽつてこつが、そんな感じ。

クラスのみんなとか、あこつとかに「はこどりやー」ついてせりやかに配つてみたかったわけよ。

で、もちろん実行してみたわけ。

昨日のうちにさ、お母さんに頼んでいっぱい材料を買つてしまつて、教わりながら初チヨコ作りつて洒落込んだの。

いやあ、俺つてこ女だね。

すつゝへ女だね。

鍋で焦がさないようこちヨコを一生懸命混ぜて、時たまおこし

そうだから舐めちやうの。

それがまたおいしくつておいしくつて。

これは反省なんだけど、最終的に三分の一ぐらい自分で舐めちやつた。

ま、おいしかったからいいんだけど。

そういうえば、女になつてからずいぶんと甘味に対しても寛容になつてきたよ、舌が。

前は甘つたるいのなんてダメだったのに、今となつては、好きとまではいかないけど、それでもおいしく食べられる。

逆に辛いのと苦いのはダメになつた。

カレーも中辛が限界だし、ブラックコーヒーなんてもつてのほか。

今はカフェオレがマイブーム。

砂糖とミルクがたつぱりのやつね。

で、チヨンだよチヨン。

元々長男一人しか子供がいなかつた我が家。

お母さんも手作りチョコなんて滅多に作らないから、型抜きなんてないわけ。

つていうか、チョコの型ひじりでひじりで抜くんだろうね。

チョコひじり溶かしたらどうだいじさん。

それを型に流し込むのかな？

でもそれだと型に張り付いたりしないのかな。

結局のところ型を使つてないから分かんないや。

で、いじみたすが女の先輩たるお母さん。

型がないこと、型を買つ気がなことと踏まえてちゃんと考えておいてくれたみたい。

その名もチョコパイ。

そう、型がないならチョコを何かに入れちゃおうって話だよ。

さすが俺のお母さん。

自分がパイ大好きだからって抜け目がないね。

思わず完成品を十個もあげちゃった。

で、その作り方や意外と簡単なの。

もしね、小学生でも頑張れば出来ちゃうべう。

なんか冷凍パイ生地つてこののが市販であるらしいって、本当にあとは切つてくつけて焼くだけのやつ。

超手軽品つてやつだね。

いや、正直に言つと情けないとは思つんだけど、だつて俺、女の子初心者だもん。

生まれて初めてチョコを作ったんだからじょうがないよね。

つてなわけで、パイ生地に粉ふつたりめん棒で伸ばしたり、いろいろやつてチョコパイを作つたんだよ。

にしても驚いたのが、パイつて接着剤代わりに溶き卵使つんだね。そんなの知らずに今まで食べてたから、てつきりパイ生地つてくつつきやすいんだなあぐらにしか思つてなかつたよ。

出来栄えとしてほんまに初心者たるものを感じるを得ないものだったけど、味はけやんとおこしいの。

だつて元は全部市販だもんね。

溶かして焼くだけなんだから、焦がしたりしない限り味が変わるものはないよ。

で、全部で七十個ぐらい作って、三時間ぐらい掛かつたかな。

こんなにキッチンに立ち続けたのも生まれて初めて。

やばいね、俺ってどんな女の子っぽくなっちゃってるよ。

乙女だね、乙女。

花も恥らつ素敵な乙女だよ。

で、もうひと段落な乙女の「ヨロ」をもらわない野郎はいないわけ

で。

めちゃめちゃ嬉しいのが、結構好評だつたこと。

俺が元男だつたこと、チョコパイの見た目がそんなに良くなかつたこともあって、食べる前はみんな嫌そうな顔してたんだよね。

でもや、試して食べてみたらみんな表情がみるみる変わる。

「まこまこー、つて言ひてば、六個食べよつとしたやつは鉄拳制裁を食らわしてやつたけど、いやあ褒められたのって嫌な気はしないね。

もうすっごく嬉しい。

やばいよ、これ書いてるだけでもテンションが上がってきた。

しかも、あいつ。

あいつは特にすごかつたね。

もうめりめり食べるのは、

そしたらさ、予想以上にうまかったらしく、俺の制止を振り払つてまでガツガツ食べるのよ。

もうね、内心ほくそ笑みまくり。

思わず二十個もあげちゃつた。

いやあ、まさか学校に着く前に二十個全部平らげられちやうど思わなかつたけどね。

クラスのみんなにも一個ずつあげられたし、俺のチョコパイは無事に売り切れならぬもらわれ切れ。

「ほんとうに、 あなたに『やー』『やー』したる顔、 人に見せられなこよ。
やばいやばー。

顔を押さえても口角上がりっぱなし。

部屋にいわって良かったよ。

「こんな『やー』『やー』した顔、 あこつこもお母さんにも見せられない。

よし決めた。

今決めた。

また来年もチョコを作ろう。

今度はもっと難しこやつ。

それで、 もっともっとおいしいやつ。

また「おいしこ」って言われたいなあ。

そしてあいつに……。

えへへ。

恋愛のページ。

「んなの、唐突すぎるよ。

返事はあとで良いつて言われたけど、それってあとで返事しなくちゃダメってことなんだよね？」

嫌だよ。

そんなの絶対に嫌だ。

分かんないって。

全然分かんない。

なんでもんなことになるの？

たしかにバレンタインデーでチラシあげたけど、友チョコじゃん。

義理チョコじゃん。

あげるとか、ちゃんと友チョコって書いたよ？

ちゃんと書いたはずなのに……。

頭が痛い。

もう頭が痛いよ。

いくら今日がホワイトデーだからって、そんなの返しにもなってない。

なんで？

あいつはなんで俺なんかを彼女にしたいの？

俺つ娘なんて今どき流行らないじゃん。

ステータスにもならないじゃん。

どうして？

クラスにも学年にもいっぱい女がいるのに、その中で毎日して俺
なの？

元男なんて気持ち悪いだけじゃん。

まるでホモみたいじゃん。

ああもう、

どこのが好きなの？

つて聞きそびれた。

おかげで全然分かんないよ。

ねえ。

凶んでゐるヒョウが、いひやつて文書にすれば『持りがせとあるんじやないの?』

誰だよ!」とトマ流した。

ダメダメ。

全然せとせんない。

頭の中がぐわぐわして、落着いてこられないと。

けりやだ。

イリイリしてきた。

やだやだやだ。

わつと洗つたばかりの髪の毛が、ぐしゃぐしゃかきぬつすがりて
ぼれぼれになつてしまつた。

明日からひひひひひて接すればいいのか分かんない。

返事はなんて言えば良いのか分かんない。

どうすれば元通りになるのかなんて、全然分かんないよ。

苦しいよ。

胸が痛いよ。

眠れない。

もう夜中の二三時なの、

もうとも眠くない。

痛くって、苦しくって、切なくって。

ねえ。

時は戻せないんだよ？

失敗したら、

それで終わりなんだよ？

俺にはそんな度胸ない。

度胸も勇気も思い切りも、

俺には何にもない。

壊れちゃう」と知らないの?

壊したくなーって思わなかつたの?

せだ、せだせだ。

だからしなかつたのこ……。

なんで、

君から貰ひて貰ひもれちゃうのへ。

「手紙を書くのは初めてです。

まじめ緊張しちゃってんだから、字が震えちゃっても気にしないでね。

えっと、君の手紙のことでよ。

まじめ口調、俺と一緒に帰つてるとか元気の手紙。

俺と別れる直前に引き止められて言つて貰つたあの手紙。

するこよ。

卑怯だよ。

あれから、俺がどれだけ悩んだのか分かってるの。

いや、分かってないね。

分かってないからあんなタイミングで手紙して貰つたんだ。

最低だよ。

この手紙読み終わつたら、ちゃんと謝りにきてね。

約束だから。

破つたらタダじゃおかないとからな。

それこそ、なんでもホワイトティーに呑み込むわけ？

普通はクッキーやん。

おいしいおいしいクッキーやん。

楽しみにしてたんだよ？

俺が最近そういうの好きなこと知ってるよな？

前に言つたもんね？

なのこ、この仕打ちまあんまりだよ。

あれだけ人のチョコパイ食べておいで、仇で返すつもり？

今度でいいから、絶対にクッキーおひつよ。

駅前においしいって噂のお菓子屋できたのも、前に言つたよね？

そこ限定だから。

あの店のクッキーじゃあ許されないから。

いいね？

それと、この際だからついでに書くけど、お前、人のこと今まで
散々からかいすぎ。

なに？ やつぱりうなの？

人をいじめてそんなに楽しいの？

六月の雨のやつ、あれは特に酷かった！

なんで女の子を濡らすわけ？

下着が透けちゃって、ものすつじく恥ずかしかったんだよ？

なのにお前は人を見てグラグラ笑うしさ……人としてのモラルを
疑うよ。

最低。

結局、教科書の弁償もしてくれなかつたじやん。

あれからずつとぶよぶよの教科書使つてたんだよ？

信じられる？

開くたびに硬くなつた紙がパリパリいつてさ、変な染みができる

文字が読みづらいや。

先生に教科書読め、つて叫んでいたとき、毎回テンパらなくしゃ
いけなかつたんだからね。

あと、エイトフォードよ。

俺のエイトフォー。

結構前の、部活の練習試合の帰りのやつ。

覚えてるよね？

忘れた、なんて言わせないよ？

俺のを勝手に持つて帰つてそのままじやん。

あれもまだ弁償してもらつてないんだからさ。

早く返してよ。

もしくは新しいの買つてよ。

八百円近くしたんだからね。

バイトでいつたらまゝ一時間分だよ。

俺のために一時間働けつて話。

あ、そうそう、お前の傘。

それも忘れてた。

大丈夫、捨ててないから。

ちゃんと家に置いてあるって。

また今度返す。

つていうかお前から取りにきやがれ。

あ、でも今度部屋に入るときにはちゃんとヘックしなよ。

つりのお母さんに勝手に上げてもいいつなよ。

下着見られたとき、超恥ずかしかったんだから！

分かってる？

下着だよ、下着。

パンツー！

あのときの謝罪もまだ終わっていないし！

本当にいい加減にしてよね。

つて、嘘うそ。

やうこいじやないんだよね。

返事だよ、返事。

うん、分かってる。

こんな文句を書いたために手紙を書いてるわけじゃないもんね。

君への返事を書くために手紙書いてるんだもんね。

でもや、いややって改めてじかに書くつてこいつのやれ……。

なんてこいつか、違うんだよね。

うん。

そういうのせり、ほり、お前がやったみたいにそ、直接会って正面切つてした方がいいと思つんだよ。

手紙で書いて渡すだけ、なんても門違につけこいつかわ。

やうなんだよー。

うん、さうに違いない！

うひこひのせ、わせんと会つて話をしなくなっちゃいけないの。

分かる？

だからさ、これを読んだらすぐにはダッシュでうちまで来る」と。

いい？

ダッシュだからね？

ダッシュ、猛ダッシュ。

遅かつたら来年のチョコあげないから！

来なかつたらサッカー部のマネージャー辞めてやるから！

まさかサッカー部のエースが足で後れを取るわけないよね。

だから、今から俺を追いかけて！

予定通りなら、この手紙は放課後に渡して、俺は走って帰ってる
はずだから。

俺に追いついたら、褒美あげる。

なんだと思う？

予想が当たつてたら、もう一つ、褒美あげる。

パーフェクトなら、一つもあげちゃうんだよ？

すごい？

走りながら、頑張つて考えてね。

「褒美、俺も考えてあげるから。

じゃあ、待つてる。

ばいばい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2311m/>

1ページ

2011年1月10日01時29分発行